

2009(平成21)年度 事業報告書

認定NPO法人 アジア日本相互交流センター

INTERNATIONAL CHILDREN'S
ACTION NETWORK

Not "for" the People, but 'with' the People

2009年 ご挨拶と事業報告概要

アイキャンは2009年、子どもたちの活動を大きく飛躍させることができました。これは多くの個人、団体、企業、行政の「できること(ICAN)」を持ち寄って、力を合わせた結果に他なりません。ここに皆様への感謝をこめて、2009年のご報告をさせていただきます。

「危機的状況にある子ども達とともに行う教育プログラム」では、例年通り一人でも多くの子どもが学校に行けるように活動するとともに、その活動領域を保健・医療や生計向上、平和活動等に拡大しました。フィリピンミンダナオ島のジェネラル・サントスでは昨年からの引き続きである子どもたちの通学支援に加え、演劇による相互理解促進の活動を行いました。同じミンダナオ島の紛争地ピキットでは、小学校2校の建設に加え、7校の子どもたちの平和活動を実施することができました。依然として治安は不安定なままですが、事業を通して、少しでも子どもたちに希望を感じていただけていることを願っています。また、ひと際事業が大きく成長したマニラの路上の子どもたちの事業では、マニラ6ヶ所において毎週300人の子どもたちが参加する路上教育や保健・医療活動、収入を増やす活動等に力を注ぎ、路上から学校に復帰する子どもたちの笑顔を作り出すことができました。先住民族ブラアンの子どもの事業では、給食校を5校へと拡大し、学校給食に加え、伝統文化に基づく生計向上や学校菜園活動を軌道に乗せることができました。一方、先住民族ドゥマガットの子どもの事業では、引き続き奨学金の提供をおこなうとともに、住民組織の強化を行いました。そして、2009年度からの開始事業である外国にルーツを持つ子どもたちの事業では、無料翻訳事業の基盤を作ることができました。

また、フィリピン各地から危機的状況に置かれた子ども達が集まり、社会を良くしていくための行動計画を作る「子ども議会」を今年も開催しました。2008年度の参加者が地域での行動を経て、一回り成長していたのが印象的でした。

「ごみ処分場周辺での地域開発プログラム」では、地域の人々による協同組合とその収入源である住民薬局が作られ、2010年度の住民への事業主体の移行に向けて、順調に進めることができました。また、200名を超える住民に、ニーズに基づいた技術訓練を実施し、その後の起業支援へとつなげることができました。

「相互理解を促進するプログラム」では、例年の国際理解教育やフェアトレードに加え、スタディツアーを再開させました。帰国後、参加者が自主的に帰国報告会を開く等、活動が広がっています。また、「災害緊急支援プログラム」では、マニラで10月に発生した台風災害に対して、多くの方のご協力のもと、迅速に対応にあたることができました。

「ICAN(できること)」を増やす活動において、ボランティアの皆さんが自分たちでいくつかのグループを作り、それぞれが計画を立てて実行していく体制になりました。自主的に動き、活動が活発化しています。また、ハガキ収集活動を通じて、新しくアイキャンの活動を知ってくださる方が大幅に増えたことも今年の特徴です。

「組織運営面」では、ミンダナオ島にまた1つ事務所ができ、日本とフィリピンを合わせて合計4つの事務所で、約30人の有給職員が活動する体制へと基盤を強化することができました。メディアで取り上げていただくことも多くなり、新聞だけでも16回掲載していただきました。運営資金面に関して、総収入額は2008年の3403万円から2009年5833万円へと増やすことができ、また自己資金が1.6倍になり、「自己資金増加中期計画」の目標を達成することができました。

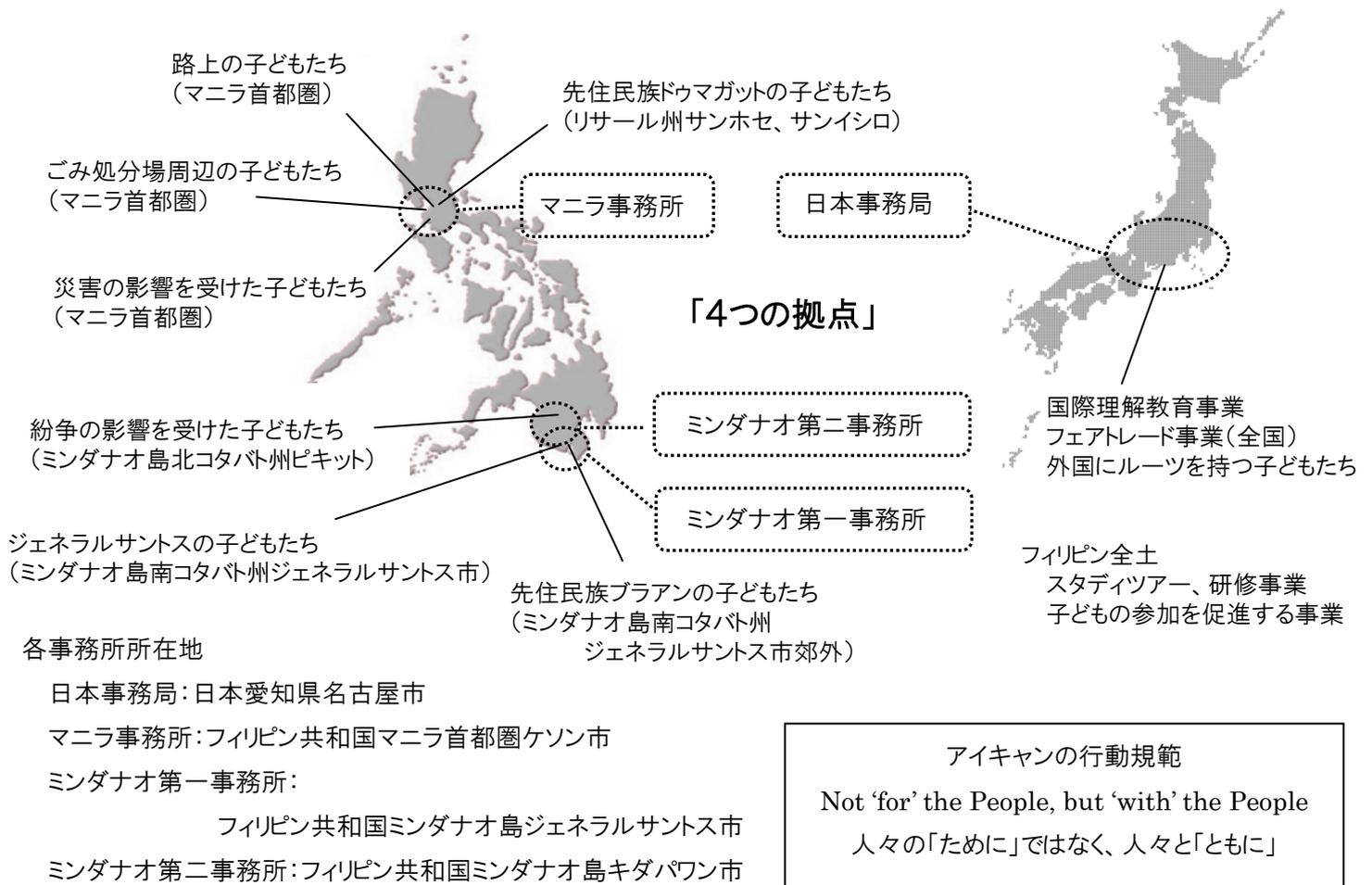
これだけ経済状態が悪化する中、会員さんや寄付者、ボランティアさんや賛同者の皆さん、企業、行政、学校、助成団体、アイキャンの理事や日本人・フィリピン人スタッフ、そして事業地の子どもや大人が「できること(ICAN)」を持ち寄り続けた結果、アイキャンの活動は着実に広がり、多くの子どもたちの状況を改善することができました。

ここに、多くの人々によって成し遂げられた2009年の活動の成果のご報告を、皆様にお届けいたします。

ありがとうございます。

代表理事 田口 京子

アイキャン事業地及び担当事務所分布図



認定NPO法人 アジア日本相互交流センター・ICAN(アイキャン)

設立: 1994年4月1日

郵便番号: 453-0021

住所: 愛知県名古屋市中村区松原町1丁目24番地

地域密着型ビジネス支援施設内N103

(名古屋駅から地下鉄東山線で2駅目にある「本陣駅」

3番出口から徒歩1分になります。)

電話番号&FAX: 052-908-9314

Eメールアドレス: info@ican.or.jp

ホームページ: <http://www.ican.or.jp>

郵便振替: 00850-6-78233

【代表理事】

田口京子 養護学校教諭

【理事】

雨森孝悦 日本福祉大学教授、日本NPO学会理事、(特活)シャプラニール監事

伊藤洋子 会員

鈴木真帆 (財)結核研究所 フィリピン駐在員

高畑 幸 広島国際学院大学現代社会学部教員、フィリピン学会所属

高野 翔 会員

松浦宏二 (特活)チャイルド・ファンド・ジャパン
リエゾン事務所プログラムオフィサー

宮脇聡史 東京基督教大学准教授、文学博士、
フィリピン学会所属

【監事】

龍田成人 名古屋 NGO センター副理事長、工学博士

林 俊彰 税理士



フィリピンNGO・学校のパートナー

| 団体・機関名(他多数) | 事業名・内容 |
|---|--------------------------------|
| Balay Mindanaw Foundation, Inc | ピキットの紛争の影響を受けた子どもたち・平和活動 |
| Balay Rehabilitation Center, Inc | ピキットの紛争の影響を受けた子どもたち・平和活動 |
| Bahay at Yaman ni San Martin de Porres | ブストスに住む路上で暮らしていた子どもたち・子どもの生活施設 |
| Polytechnic University of the Philippines | ごみ処分場周辺に住む子どもたち・協同組合設立 |
| University of St. Tomas (UST) | ごみ処分場周辺に住む子どもたち・コミュニティ薬局設立 |

メディア掲載

| 日時 | 媒体名 | 題名 | 内容 |
|--------|-------|---------------------------------|--------|
| 1月25日 | 中日新聞 | バレンタインに「ぬいぐるみ」を、フィリピンの女性の思いも届け！ | 国内活動 |
| 2月11日 | 読売新聞 | 子どもに囲まれ「お金ください」 | 子どもの参加 |
| 2月11日 | 朝日新聞 | 中3が比での体験報告 | 子どもの参加 |
| 2月23日 | 中日新聞 | 脱貧困かばんに託し～NGOと企業連携 フィリピンで製造～ | 国内活動 |
| 3月9日 | 中日新聞 | ミンダナオ島の紛争の現状報告 | ピキット事業 |
| 3月9日 | 朝日新聞 | 留学生ら紛争問題報告 | ピキット事業 |
| 3月26日 | 朝日新聞 | 書き損じはがき集め、比の子に学ぶ機会を | 子どもの参加 |
| 4月22日 | 朝日新聞 | 自立の夢詰め、広告バック 比の母親ら収入増期待 | 国内活動 |
| 6月12日 | 朝日新聞 | 環境破壊 アジアの現実 多様な暮らし、文化知って | 国内活動 |
| 10月3日 | マニラ新聞 | 橋の下の家が流され、橋の上でテント生活 | 路上事業 |
| 10月9日 | 朝日新聞 | 台風16号禍 比の貧困層救え | 路上事業 |
| 10月9日 | 中日新聞 | 比の台風被害で寄付を呼び掛け 中村のNPO法人 | 路上事業 |
| 10月12日 | ラジオ3Q | サンキューアフタヌーン | 多文化共生 |
| 11月2日 | 中日新聞 | 台風被災 フィリピンの子ら絵画展 失われた「私の好きな場所」 | 子どもの参加 |
| 12月11日 | 中日新聞 | 比の貧困層の女性の手作り人形 Xマスのギフトにいかが | 子どもの参加 |
| 12月28日 | 岐阜新聞 | 書き損じはがき送って 名古屋のNPO国際支援に活用 | 国内活動 |

参加ネットワーク

| ネットワーク・団体名 | 所属・担当 | 詳細 |
|------------------------|-------|--|
| (特活)国際協力NGOセンター(JANIC) | 正会員 | ・全国規模のネットワーク型NGO |
| (特活)名古屋NGOセンター | 正会員 | ・中部地域のネットワーク型NGO |
| 児童労働ネットワーク | 正会員 | ・日本から児童労働問題の解決に貢献するNGO、労働組合などが加盟するネットワーク |
| フィリピン日本パートナーシップ(PJP) | メンバー | ・フィリピンNGOと日本NGOが集うネットワーク |
| 在フィリピン日本NGO懇談会 | 世話人 | ・在フィリピン日本NGO間のネットワーク ・世話人のうち、2名がアイキャン職員、1名理事。 |
| ハロハロメーリングリスト | 管理人 | ・フィリピンの開発関係者のメーリングリスト。 ・管理人2名のうち、1名がアイキャン職員。 |
| フェアトレード研究委員会 | メンバー | ・日本のフェアトレード専門家が集う研究会 |

助成事業・委託事業のパートナー

| 団体・機関名 | 事業名・事業内容 |
|--|--|
| (独)国際協力機構(JICA)草の根技術協力 (2007年11月～2010年10月) | パヤタス地区における地域型保健事業および生計向上事業 -ごみ処分場閉鎖対策として- |
| 公益信託 今井記念海外協力基金 (2008年4月～2011年3月) | フィリピンミンダナオにおける共生のための教育事業 |
| 公益信託 愛・地球博開催地地域社会貢献基金 (2008年4月～2011年3月) | 子どもがつくる新しい地球のカタチ -持続可能な社会構築のための子どもの参加- |
| (財)愛知国際交流協会(AIA) (2008年4月～2009年3月) | フィリピンミンダナオ島の子ども通学支援事業 |
| (財)結核予防会結核研究所(JATA) (2008年4月～2009年3月) | フィリピンにおける都市コミュニティでの結核対策事業 |
| 草の根市民基金ぐらん (2008年4月～2010年3月) | フィリピンミンダナオにおける平和構築事業 |
| (特活)アユス仏教国際協力ネットワーク (2008年9月～2009年3月) | フィリピンミンダナオ島における緊急支援 |
| 公益信託アドラ国際援助基金 (2008年10月～2009年9月) | フィリピン・ミンダナオ島の紛争によって影響を受けた子どもの 平和構築事業 |
| 財団法人庭野平和財団 (2008年11月～2009年10月) | フィリピン・ミンダナオ島の紛争によって影響を受けた子どもの 平和構築事業 |
| Panasonic 株式会社 (2009年1月～2010年12月) | 日本事務局組織強化事業 |
| (独)郵便貯金・簡易生命保険管理機構 ボランティア貯金(2009年4月～2011年3月) | ミンダナオ島先住民族ブラアン族の教育、及び生計向上事業 |
| (独)郵便貯金・簡易生命保険管理機構 ボランティア貯金(2009年4月～2011年3月) | マニラの路上で生活する子どもたちの包括的生活改善事業 |
| 郵便事業株式会社年賀寄付配分事業 (2009年4月～2010年3月) | 市民ボランティアによる外国にルーツを持つ子どもへの 教育支援事業 |
| (特活)国際協力NGOセンター 及び財団法人庭野平和財団 共催 (2009年4月～2011年3月) | 日本事務局組織強化事業 |
| 東海NGO助成金 (2009年4月～2011年3月) | 東海フェアトレードフォーラムの開催 |
| Souse of the Heads of Missions(SHOM) (在フィリピン各国大使夫人の会) | パヤタスケアセンター機能強化、及び路上の子どもの活動 |
| (特活)アユス仏教国際協力ネットワーク (2009年10月) | マニラ災害の緊急支援事業 |

1、危機的状況にある子ども達と「ともに」おこなう教育プログラム

1、フォーマル教育支援事業(通学支援)

(写真:奨学生とのミーティング)



a、ジェネラル・サントスの子どもたち

(1) 事業概要

ミンダナオ島の南部に位置するジェネラル・サントス市は、人口41万人、世帯数9万の地方都市です。ツナやパイナップル、ココナッツなどの魚産物・農産物が豊かに収穫できますが、大農場や工場を持つ握りの資本家への富の集中が顕著で、多くの人びとが最低限の生活状況のなかにいます。アイキャンは同市に住む経済的に困難な状況にある家庭の子どもたちの通学支援を実施しました。

(2) 実施体制

ミンダナオ第一事務所(ジェネラルサントス市)が実施

(3) 実績

1) 教育支援

1月から3月末までは96名(小学生29名、高校生63名、大学生4名)、4月の卒業式以降12月までは75名(小学生22名、高校生50名、大学生3名)の子どもたちの通学を支援しました。制服、学用品、かばん、靴などを支給し、学費、通学交通費、プロジェクト費、卒業経費を提供することにより、子どもたちの学校の勉学に最低限必要なものを整え、安心して勉強に取り組める環境を作りました。3月、4月には小学生7名、高校生12名、大学生2名が卒業の日を迎えることができました。

2) 緊急支援

8月に急性虫垂炎に罹った1名と、11月にデング熱に罹った1名の奨学生に対して、入院と手術にかかる諸費用を提供しました。

3) モニタリング

スタッフが、家庭・学校訪問を行い、子どもの成績や学習態度について、保護者や担任の教師と密に連絡をとりながらモニタリングを行いました。また事務所においても、学校や家庭の問題について、奨学生や保護者の相談を受けました。5月に「子ども集会」を開催し、奨学生や保護者と事業目的、方法について確認しました。また卒業生や表彰された子どもたちをともに祝いました。

4) プロGRESSレポート発送と手紙やカードでの交流

7月と12月に、奨学生の成長記録と手作りカードを日本のパートナーさんに郵送しました。また日本のパートナーさんから郵便16通を子どもたちに届けました。

5) ノンフォーマル教育

7月、奨学生9名と先住民族ブラアンの子どもの6名を対象に演劇ワークショップを開催し、「共生」をテーマとした劇を作りました。8月には計600人以上の前でこの劇を発表しました。また、10月には薬物についての勉強会、11月には地域の大掃除を子どもたちが企画行いました。

(4) 特記事項

「共生」の重要性を説く演劇を通して、子どもたちが啓発活動の担い手として活躍することができました。

(5) 2010年の展望

2009年に子どもたちが形にした「共生の大切さ」を、2010年には漫画という媒体を利用して、より広く伝えていきます。また子どもたち自身が危機感を抱いている薬物乱用の問題について、子どもたちが主体的に取り組みを進めます。



b、ピキットの紛争の影響を受けた子どもたち

(1) 事業概要

ミンダナオ島北コタバト州ピキットの住民は、長年続いてきた武力紛争により、避難生活を繰り返してきました。アイキャンは、川沿いの7集落で2006年より小学校校舎の修復を通じた地域の平和活動を促進してきました。今期は、2008年の紛争再燃以来見合わせていた同集落での教育支援事業を再開し、特にこれまで着手が遅れていたプロル村とカバサラン村の小学校の学校校舎の建築に注力しました。治安悪化などの問題に直面しながらも住民や協力機関の連携を強めながら無事に建設を完了することができました。

(2) 実施体制

マニラ事務所が管理運営。5月に開設されたミンダナオ第2事務所(キダパワン市)の駐在スタッフが実施しました。

(3) 実績

1) 学校校舎の建築・学用品の配布・地域平和活動

① 8月、プロル村とカバサラン村において校舎各1棟の建築が完了しました。これにより生徒113名が、天候に左右されず勉強に取り組めるようになりました。また7校でノートや鉛筆、英語教材を配布しました。9月にはプロル小学校の完工式が行われ、事務局長やマニラ事務所スタッフも出席しました。

② 10月、NGOバライミンダナオと連携して「学校を舞台とした癒しの平和ワークショップ」を行い7校の80名が参加しました。

2) 日本国内における活動

① 3月「ミンダナオの平和を祈るシンポジウム」を開催し、JICAや他NGOの専門家を招き、市民ら約160名に平和構築事業の取り組みを報告しました。

② 毎月日本のボランティアグループが街頭募金などを通し、市民にミンダナオ紛争の現状を訴えました。

3) モニタリング

ミンダナオ第2事務所スタッフが、学校や教育省、地方政府などと密に連携しながら、マニラ事務所と日本事務局への日々の活動進捗や治安情報の共有を行いました。

4) ニュースレター発送と手紙や絵での交流

10月と12月、ニュースレターや子どもの手作りカードをキッズパートナーさんに発送し、日本の協力者から寄せられた文房具の寄付や手紙等を子どもたちに届けました。

5) ノンフォーマル教育

11月、第1回子ども議会参加者を含む7名が、平和活動を企画しました。11月から12月にかけて村の大人たちを学校に招き、平和を望む子どもたちの声を届けました。

(4) 特記事項

今期、事業地に近い町キダパワン市に事務所を構え、駐在スタッフ2名の事業実施体制を整えました。これにより、きめ細やかな事業実施や危機管理が可能となりました。

(5) 2010年の展望

7集落や教育省、地方政府との協議の末に策定された「ピキットの教育インフラ整備構想」に基づき、さらに校舎の建設を進めていきます。



c、路上の子どもたち

(1) 事業概要

フィリピンでは約25万人の子どもたちが様々な理由で路上での生活を余儀なくされています。子どもたちは物乞いや、物売り、廃品回収業、性産業等により生計を立て、様々な危険のなか暮しています。空腹を紛らわせるためにシンナーを吸引し、身を守るためにギャングの一員となる場合もあります。アイキャンは、このような路上での生活を強いられている子どもたちに対して、教育と養育の活動を実施しました。

(2) 実施体制

マニラ事務所が6事業地(ケソン市フィルコア、アグハム通り、ミンダナオ通り、ムニョス、ホリースピリッツとマニラ市ブルメントリット)にて路上教育事業を実施。通学支援に関してはフィリピンのNGO、「子どもの家」の運営をする Bahay at Yaman ni San Martin de Porres と、ALS(以下、代替学習制度)を持つ Lingap Pangkabataan と共同実施しました。

(3) 実績

1) 路上教育及び保健・医療活動、栄養改善

マニラ首都圏の路上の子どもたち約200名と路上教育、保健教育・医療活動、栄養改善活動を実施しました。路上教育では、子どもの権利、道徳、人生設計などをテーマにワークショップを行いました。保健教育では、病気・ケガの予防の知識・方法を中心に学び、医療活動では月一度の定期健診を行いました。

2) 通学支援

「子どもの家」に暮らす元路上にいた子どもたち、高校生4名、小学生1名、12月に路上から「子どもの家」に移った子ども

1人、計6名に対し学校諸費や養育にかかる費用の提供をしました。また、現在路上で働き、学校に行く機会を得られなかった2名に対する通学支援を、代替学習制度を持つNGOと提携し実施しました。

3) 職業訓練

生計向上を目指し、路上の年長の子ども15名とTシャツ印刷の職業訓練を、路上の子ども親15名と食品加工などの訓練を実施しました。参加者はその技術を生かし、少しずつ収入を得ることができるようになりました。

4) ノンフォーマル教育

元路上で生活していた子どもたちが、今も路上にいる子どもたちに過去の話をすることで、今も路上にいる子どもたちの路上生活を終える意欲を高めました。

5) ニュースレターの発送

9月と12月に日本のパートナーさんへニュースレターを送り、活動の進捗や子どもたちの現状について報告しました。

(4) 特記事項

2009年はスタッフを充実させ(約10名体制)、各事業地の子どもたちや住民たちとの信頼関係を構築し、定期的な活動を確実に進めていくことによって、マニラにおける路上教育の事業体制を確立できました。

(5) 2010年の展望

これまでよりさらに深く1人ひとりの子どもの問題に対応した介入を行い、家庭への介入、施設探し、学校への復帰の補助を行って行きます。また、子どもたちの組織化に力を注いで、子どもたちの力を最大限引き出していきます。



d、ジェネラル・サントスの先住民族ブラアンの子どもたち

(1) 事業概要

ミンダナオ島ジェネラル・サントス郊外にいるブラアンは、独自の文化・慣習を持ち、主に畑作や炭焼きなどを生業として、山岳地帯に住んでいる先住民族です。1970年代以降、深刻化してきた不法伐採や入植者による土地収奪により生活が脅かされ、農耕や採取を基盤とした自給自足の生活が成り立たなくなってきました。子どもたちの多くは空腹により通学意欲を失い、卒業まで通学できる子は一握りにすぎません。また退学した子どもたちも、農業労働者や家事手伝いなどの不安定で低収入の仕事しか得られません。このような状況に対し、アイキャンは空腹のため勉学に集中できない子どもたちの通学意欲を高めるために、5つの小学校において学校給食を実施しました。

(2) 実施体制

マニラ事務所が事業管理、運営。ジェネラル・サントス事務所が学校教員、保護者と協力して実施。

(3) 実績

1) 5つの小学校での学校給食

サンホセ86回、ダアンバンワン89回、アspan71回、ダターサルバン71回、バゴンシラン71回の給食を提供しました。対象児童は5校で500名です。

2) 5つの小学校での家畜飼育

各校はヤギや水牛など、それぞれの環境に適した家畜を飼育し、貸売することによって得た収益で給食にかかる経費を捻出しました。年末の時点で、5校が有しているヤギは計23匹、水牛は計2頭です。

3) 5つの小学校での学校菜園

各校は学校給食を持続させるために、トウモロコシ、芋類、豆類等の野菜を栽培しました。水牛を飼育した学校では、水牛を使用し、学校菜園を拡張することができました。

4) 母親達による生計向上活動

2009年から各校で母親グループが組織され、生計向上活動が行われました。母親達は山の恵みを活用して作る工芸品を町で売り、新たな副収入の道を模索しています。

5) モニタリング

ジェネラル・サントス事務所スタッフが保護者・学校・教育省と随時連携を取り、進捗状況を連絡しました。

6) ノンフォーマル教育

各校を代表する生徒が町に住む子どもたちとともに演劇を作り、ブラアン文化について広く紹介することができました。また子どもたちによる菜園の試みも始まりました。

(4) 特記事項

対象校が2008年の2校から5校へと拡大し、より多くの子どもたちの通学が可能となると同時に、学校と地域が給食を自らの力で続けていけるよう準備を進めることができました。また、同時に日本人職員を始め、フィリピン人スタッフの2名増員を行い基盤強化をはかりました。

(5) 2010年の展望。

先住民族ブラアンの地域では、飢えだけでなく、学校設備の不足、山の資源の枯渇などの課題を抱えています。今後より広い範囲でニーズに答えていけるよう調査も行い、事業の質を高めていきます。



e、サンイシロの先住民族ドゥマガットの子どもたち

(1) 事業概要

リサール州アンティポロ市にあるサンイシロ村には、先住民族(ドゥマガット)の血をひく人々が多く住んでいます。人々は主に焼畑や稲作などの農業で生計をたてていますが、収穫は十分でなく、雨季になると地理的に孤立してしまうなど、厳しい環境に置かれてきました。子どもたちも、経済的、地理的、社会的な理由で、高校卒業まで通学できないケースも少なくないため、アイキャンは高校通学支援を実施しています。またこれまで農業に取り組む住民組織を通じて生計向上の活動を進めてきました。2009年は既存の奨学生の高校通学支援と並行し、地域の農業系住民組織MASAKA(以下、マサカ)の組織化研修を行いました。

(2) 実施体制

マニラ事務所が村の住民組織マサカや学校の教師と連携して事業を実施、管理。

(3) 実績

1) 通学支援

高校生6名のうち4名が3月に高校を卒業し、4月以降奨学生は2名のみとなりました。6月、この2名に対し、新学期に必要な学用品や制服を提供しました。また学校諸費や卒業手続き費用を提供しました。

2) 住民組織の組織強化

10月に農村開発を専門とするNGOマシパグ(MASIPAG)と連携し、住民組織マサカの組織強化研修を行いました。メンバー16名のほか、市政府の先住民族保護管轄の職員

1名も出席しました。研修では、組織の存在意義や具体的な活動内容を見直し、組織の課題を率直に話し合いました。参加者からは「先住民族の権利を学び、住民が抱える共通課題(土地永続権の問題)に向けて解決する能力を養いたい」との要望も聞かれました。

2) モニタリング

子どもと保護者、集落住民(住民組織マサカメンバー)や教師との会議を、集落や学校、低地の役所にて行うほか、家庭訪問による懇談を随時行いました。

3) ノンフォーマル教育

11月に村の森林伐採などの自然破壊を食い止めようと、奨学生を含む青年たち7名と村の大人たちが集まり、自然再生に向けた植林活動を行いました。

(4) 特記事項

2009年は農村開発専門のNGOとのネットワーキングを強化し、住民組織マサカからの要望に応える形で組織強化研修を企画・実施することができました。

(5) 2010年の展望

2010年は、既存の奨学生2名のみの通学支援を継続します。2011年4月にすべての奨学生が卒業できると、サンイシロ事業地でのアイキャンの活動は終了します。終了後も住民組織自身が、地域の課題の解決に取り組めるように、2010年アイキャンは引き続き住民組織強化に注力していきます。

Libreng Pagsasalin para sa Anunsiyong Pampaaralan! (ng I-CAN)

■ Kailangan mo ba ng tulong upang maunawaan ang mga anunsiyo at sulat mula sa iyong paaralan?

■ Nahihirapan ka bang makipag usap ng malinaw sa iyong guro?

e、外国にルーツを持つ日本の子どもたち

(1) 事業概要

アイキャンの日本事務局がある東海地域は製造業に従事する外国人が多く暮らしています。彼ら・彼女らの多くは自国での就職を諦め、よりよい生活の場を求めて移動してきた人たちです。日本にやってきた人たちの子ども、また日本で生まれた彼ら・彼女らの子どもたちは、世界のすべての子どもたちと同じように教育を受ける権利があります。しかし、言葉の壁、習慣の壁、経済状況などにより、教育を受けにくい状況に置かれている子どもが増加しています。また、言葉の壁、習慣の壁等により主体的に子どもの教育に関わる機会が奪われている親も多く存在します。アイキャンはこのような状況を改善する初めの一步として、学校や保育園で配布されるお知らせを翻訳する活動を実施しました。

(2) 実施体制

日本事務局が管理を行い、28名の語学ボランティアが中心となり、東海地域の自治体・教育委員会・学校・地域の市民活動団体・外国人住民個人と連携をとり事業を実施。

(3) 実績

1) 翻訳サービスの広報

愛知県とその周辺地域に翻訳サービスの取り組みについて広報を行いました。愛知県、岐阜県、三重県の各自治体の教育委員会、児童福祉課・子ども課、国際交流関連団体、日本語教室への広報を行いました。名古屋国際センター、愛知県国際交流協会、フィリピン人を支援する団体フィリピン移住者センター、国際子ども学校へチラシを設置、多くの外国人が通う地域の教会みこころセンター、名古屋神召

キリスト教会、フィリピン食材店へもチラシを設置しました。

2) 無料翻訳サービス

- ① 外国人個人からの依頼：小学校入学許可、自治体からののお知らせ等
- ② 自治体からの依頼：保育園の入園案内、3人乗自転車貸し出し事業等
- ③ 学校からの依頼：連絡の取れない子ども・親への手紙、アレルギー疾患に関する調査のお知らせ等

3) 翻訳ボランティアの募集

翻訳ボランティアの募集のため、地域ボランティア団体、国際交流団体、大学へちらしを設置、アイキャンのホームページやインターネット上でも募集を行いました。

(4) 特記事項

当事業の初年度として、関係諸機関や市民と連携しながら、基盤を構築することができました。

(5) 2010年の展望

多くの子ども達によりよい教育の機会を持ってもらうため、翻訳サービスの制度の向上を目指し、さらに多くの外国にルーツをもつ子どもたちとその家族に利用してもらえるよう広報にも力を入れていきます。英語以外の翻訳サービスを提供していくことも予定しています。多くのボランティアを巻きこむことにより、地域に暮らす外国にルーツをもつ子ども達の現状理解促進につなげ、また、活動体験を報告書を通じて共有することにより、活動に関わる人たちの意識向上につなげていきたいと考えています。



(1) 事業概要

アイキャンが事業の中で出会ってきた子どもたちは単に教育や医療等の社会サービスへのアクセスが欠如しているのみならず、経済・政治・社会・文化といった枠を超えて包括的に「力」を発揮できない場所に置かれていました。そしてその「力」の欠如こそが、子どもたちを統計にも反映されない「声のない存在」へと追いやり、直接的・間接的な暴力(紛争や貧困等)に寛容な社会を作り出しています。

この認識に立脚し、アイキャンは貧困削減の具体的な1つの方法として「子どもの参加」を促進し、危機的状況に置かれた子どもたちが声をあげる場を提供してきました。2009年には子どもたちが自分たちの課題を解決するために、自ら計画、実行する経験を持ちました。

(2) 実施体制

フィリピンの様々なNGOや政府機関と連携をしながら、マニラ事務所が事業実施、管理。

(3) 実績

1) ノンフォーマル教育

8つの異なる背景を持った子どもたちがそれぞれの地域で集まり、第1回子ども議会で話し合った出身コミュニティの課題解決に向け、それぞれが「子どもの僕たち・私たちにできること」を様々な手法を通して形にしました。

① ジェネラル・サントスの子どもたち(10月、11月)

アイキャン奨学生を代表する4人が町の「良いところ」と「改善できるところ」について意見を出し合いました。結果、「同世代の多くが薬物に手を染めている」ことが課題としてあがり、それを改善するために「薬物についての勉強会」を

子どもたちが中心となり開催しました。約20名が参加し、共に薬物についての知識と考えを深め合いました。また11月には子どもたち自身で地域の大掃除を企画実行しました。

② 紛争の影響を受けた子どもたち(11月、12月)

第1回子ども議会参加者他7名の子どもたちが「暴力を許さない平和な村創り」について意見を共有し、行動計画を作成しました。参加者らは各村に戻り、学校で教師や村の安全を担う役場の大人を招いて考えを発表し、村をあげて平和に向けて取り組んでほしいと願いを伝えました。

③ 路上の子どもたち(9月、12月)

「子どもの家」のアイキャン奨学生2名が現在路上にいる子どもたちに、自分の路上にいた過去や「子どもの家」での経験を共有しました。「子どもの家」の奨学生にとっては、過去を乗り越えたことを自信をもって振り返ることができました。現在路上にいる子どもたちは、路上を出て未来を築く奨学生の姿に、勇気づけられていました。

④ 先住民族ブラアンの子どもたち(7月～12月)

7月ブラアンの子どもたち6人、ビザヤの子どもたち9人が「共生」をテーマとした演劇を作りました。4校において、上演発表会も行いました。10月には、ブラアンの子どもたち5人が地域の「素晴らしさ」と「抱える課題」を出し合い、その解決に向けて「行動計画」を作成しました。主な課題は「食糧不足」と「環境破壊」でした。これらを改善する第一歩として、子どもたちは自ら「野菜・果実の栽培」を始めました。



⑤ 山村サンイシロに住むドゥマガットの子どもたち(11月)

7人の子どもたちが、村の森林伐採などの自然破壊を食い止めようと共通の問題意識を持ち、村の人々を巻き込んで自然再生に向け植林活動を行いました。植林活動に使用した苗は、市の協力を得て無料で提供してもらうことができました。

⑥ パヤタスごみ処分場周辺の子どもたち(11月)

第1回子ども議会参加者他15名の青少年らが、廃品回収を通して資金を集め、地域の栄養不良の子ども65名を対象としたフィーディング(炊き出し)を行いました。子どもたちは食糧を配るだけではなく、混乱を招かない様に事前に整理券を配るなど、主体性を持って計画的に地域の課題に取り組みました。

⑦ 身体的障がいを持つ子どもたち(11月)

パートナーNGO「愛の家」の施設の子ども18名が、社会における障がい者への理解や地位をあげていく為の第一歩として、まず「ぼくたち・私たちにできる」ことを多くの人々に知ってもらいたいとミニ・コンサートを開きました。伝統的弦楽器ロンダリアの演奏やダンス、演劇は観衆の心を動かしました。

⑧ 日比国際児の子どもたち(12月)

パートナーNGO「マリガヤハウス」の活動に参加する子どもたち3人とワークショップを行い、日比国際児としての経験を互いに共有しました。日本人である父が不在の家庭のなかで育ち、フィリピン社会で偏見を感じつつ生きながらも、その経験を周りに共有することはなかったという子ども

たちが、改めて日本とフィリピンの国際児である自分たちのアイデンティティを見直しました。

2) 「アイキャン2009年子ども議会」開催(12月)

ジェネラル・サントス(3名)、ピキット(3名)、ブストス子どもの家(2名)、路上(4名)、ブラアン(3名)、サンイシロ(3名)、パヤタス(5名)の6事業地の子どもたち、及びフィリピンNGO下で教育支援を受ける身体的障がいを持つ子どもたち(4名)と日比国際児(3名)を含む計30名が参加して、「子ども議会」を開催し、より幸せに生きられる社会を、子どもたちの手で作るためにどうしたらいいか話し合いました。2008年子ども議会参加者は、議会後に各地域で実施した活動を発表し、新しい参加者たちは、自分の経験を互に分かち合いました。そして今回の議会では、より具体的かつ現実的な6ヶ月行動計画を創りあげることができました。

(4) 特記事項

2009年は小規模ながら、子どもたち自身が考えたアイデアを自分たちの力で実行させることができました。この経験を積み上げていくことが、危機的状況にある子どもたちが主役の事業運営を将来可能にしていきます。

(5) 2010年の展望

2008年と2009年の子ども議会で、生まれた子どもたちの「社会を変えていく意志」を活動の中で形にしていき、より子ども主役で行えるようにシフトさせていきます。その為、各事業地で子どもの組織化を進め、子どもたちの力を増やしていきます。



(1) 事業概要

マニラ首都圏ケソン市郊外にあるパヤタス地区には、フィリピン最大のごみ処分場があり、周辺には約1万人が生活しています。ごみ処分場でリサイクルできる資源を回収し販売することで生計をたてる人が約3,000人いますが、その収入は法定最低賃金の3分の1程度しかなく、必要最低限の暮らしを保つのが困難です。また、劣悪な生活環境によって、住民は様々な健康被害に直面しています。このような背景から、アイキャンは処分場に近い場所にケアセンターを建て、医療と生計向上の事業を実施してきました。2009年は協同組合(PICO)が運営する「住民薬局」を政府登録し、今後の医療サービスの資金確保をしていく上での運営基盤を確立しました。特に協同組合会計専門家をおき、会計能力の強化に力を入れました。また、ごみ山からの収入に頼る家族が処分場閉鎖後も安定した収入を維持できるように、外部の職業訓練校への参加支援に力を入れました。

(2) 実施体制

JICAの草の根パートナー事業として、マニラ事務所が事業実施、管理。

(3) 実績

1) 保健・医療活動

① 医師による定期診療(毎週火・土)

92回実施、患者数延べ2,898名(17歳以下男性960名、女性1,040名、17歳以下男性277名、女性621名)。診察日の予防接種受診者、230名。

③ 助産師による妊産婦検診(月2回)

妊婦の定期検診や新生児の予防接種を実施。23回、受診者数延べ431名

③ 地区巡回診療(アウトリーチ)(第2火曜日)

医療チームが地区を巡回し、新生児や妊婦の検診と予防接種(ジフテリア、BCG、肝炎、はしか、経口ポリオ、破傷風)を行いました。また子どもたちへのビタミンA投与や患者のフォローアップを実施しました。

④ 結核対策DOTS(直接監視下短期化学療法)

PICO医療スタッフがDOTSパートナーとして、結核患者の日々の服薬をモニタリングしました、また結核教育を行い、地域内で偏見を持たれがちな結核と正しい治療方についての知識を広めました。

⑤ 外部診療補助(随時)

医療検査や高度な治療を必要とする患者(造血機能障害、リンパ結核、小児麻痺など)に、交通費や検査費、治療費の補助、通院付き添い等の外部診療補助を提供しました。

⑥ PICO医療スタッフ(元ヘルスポランティア)医療費補助
地域の保健委員として、常に病気感染の危険に晒されながら医療サービス運営を担うPICO医療スタッフに対して、交通費や各種検査費の補助を実施しました。

⑦ PICO医療スタッフ研修(もとヘルスポランティア研修)

住民を対象とした保健教育を効率的に行う為の公衆での話し方訓練やオルタナティブ医療知識の習得を通じた健康作りを学びました。4回、延べ59名。



⑧ 特別医療活動

| No. | 活動 | 実施数 | 受診者数 |
|-----|------------|-----|------|
| 1 | 子宮ガン検診 | 2回 | 111名 |
| 2 | 集団体重測定 | 7回 | 479名 |
| 3 | 割礼手術 | 1回 | 20名 |
| 4 | 寄生虫駆除 | 11回 | 480名 |
| 5 | はしか予防接種 | 1回 | 60名 |
| 6 | 経口ポリオ剤投与 | 2回 | 389名 |
| 7 | 集団ツベルクリン検査 | 1回 | 100名 |

⑨ 保健教育

- 患者対象(風邪や Dengue 熱等の感染症の症状と対策など)36回、722名出席
- 青少年対象(喘息の予防や衛生、栄養の知識、手洗いの方法など)25回、540名出席
- 栄養改善に参加する母親対象(家族計画、感染症予防、小児結核や子どもの養育)23回、554名出席

⑩ 預かり保育教育(旧栄養改善活動)

週5日初等教育前の幼児を対象に預かり保育を実施し、平均30名の幼児が参加しました。また小児結核患者や栄養不良児を対象に栄養改善(フィーディング)を継続しました。

⑪ ネットワーキング

balan ガイヘルスセンター(保健所)、ケソン市保健局、フィリピンポリテクニク大学、各職業訓練校、オルタナティブ医

療専門NGO(INAM)、国際協力機構(JICA)、アジア保健研修所(AHI)との協力体制を強化しました。

3) 協同組合・薬局設立運営支援

- ① 協同組合定例会議13回延べ379名
- ② 協同組合役員会議9回延べ65名。
- ③ 協同組合入会オリエンテーション8回延べ342名。
- ④ 協同組合の組織強化トレーニング11回延べ154名。
- ⑤ 協同組合が運営する「住民薬局」が政府登録完了。
- ⑥ 住民薬局運営会議1回12名
- ⑦ 協同組合起業支援担当者会議5回83名。

4) 生計向上事業

- ① ICAN主催職業技術訓練の実施。6回、延べ151名。(エコバッグ作り、各種お菓子作り、カード作り訓練など。)
 - ② 外部職業技術訓練への参加支援。82名。(「美容・整髪/洋裁技術」「自動車修理」「コンピュータ修理」など)
- 5) 青少年活動
- 毎週土曜日の活動のほか、キャンドル作り技術訓練や災害管理研修などを開催しました。平均参加者数55名。

(3) 特記事項

2009年は「住民薬局」が設立されました。また職業訓練校に入学した青年たちは、一人も欠けることなくコースを修了し、技術を活かして家計を助ける者も出てきました。

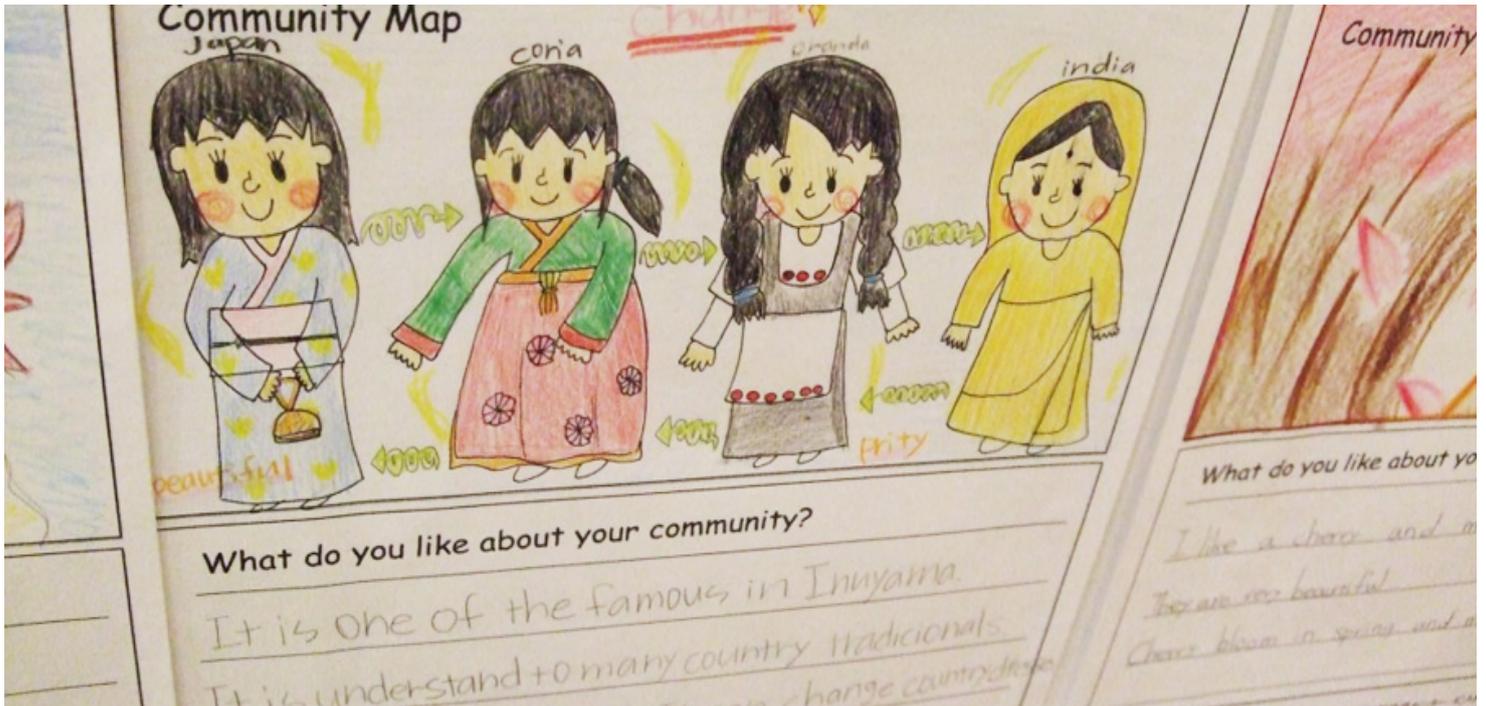
(4) 2010年の展望

2010年当事業はいよいよアイキャンからPICOに引き継がれます。PICOが健全な運営母体として継続的に地域のニーズに応えられるよう、引き続き組織強化を進めます。

Ⅲ、相互理解を促進するプログラム

1、国際理解教育(開発教育)事業

(写真: 絵手紙大会)



(1) 事業概要

幅広い事業を行うアイキャンの特性を活かし、日本に住む人々とフィリピンに住む人々の経験をお互いに共有することによって、社会の中で弱い立場に置かれた人々の「現実」に立った、社会問題の理解につながる教育事業を実施しました。また、このような社会問題を「自分の問題」として、解決に向けて様々な立場で主体的に取り組むことができる人材育成を行いました。

(2) 実施体制

日本事務局が全体の管理を行い、報告会や海外研修はマニラ事務所が、その他の活動は日本事務局とボランティアが他機関・団体と連携の上実施。

(3) 実績

1) 学校での授業 11件

桃山小学校、小泉中学校、社会科研究会、日本福祉大学、椋山女学園大学附属小学校、名古屋学院大学、名古屋国際中学校、大垣北高校、金城学院中学校、中京大学、拓殖大学、

2) イベントなどでのワークショップ・講座・その他 13件

あつい愛知の学生集団合宿、愛知県CSRセミナー、日本NPO学会、NGOスタッフになりたい人のためのコミュニティカレッジ、地球子ども会議、国際協力カレッジ、サスティナブルコーヒーCAFE、国際ボランティアへの招待、池田町ガールスカウト、こころのふれあい講座、フィリピンフェスティバル、フェアトレードシンポジウム、ドキュメンタリ人が撮るアジアの力

3) 事務所訪問受け入れ 5件

港中学校、静岡大学、天神山中学校、光ヶ丘高校、犬山中学校

4) 自主企画

マニラスタッフ森崎・野村帰国報告会(4回)、在日フィリピン人勉強会 ミンダナオシンポジウム(2回) 児童労働勉強会、はじめましてICAN(2回)、サマーセミナー、スタディツアー報告会、ピキット学校建設報告会

5) フィリピンの子どもたちへの文具寄付による交流

学校・団体から11団体、個人から15名

6) 海外研修の受入れ

拓殖大学ファシリテーター講座、中央大学、FASID「国際開発入門コース」海外研修、聖路加看護大学フィリピン研修、JICA教師海外研修プログラム、静岡大学、青山学院大学

7) トウライプロジェクト絵手紙大会

日本の17の中学校とフィリピンのアイキャンとともに活動している子どもたちが「地域の絵」と題した絵手紙を描き、名古屋のイオン大高店で展示会を開催しました。また、昨年度使節団参加メンバーがそれぞれの学校で報告会を開催し、自分達の経験を他の生徒と共有しました。

(4) 特記事項

トウライプロジェクト参加校の生徒が書き損じハガキ収集やボランティア活動に参加するなど、当事業の中でも中学生の人材育成という柱が構築できた一年でした。

(5) 2010年への展望

学校や企業とのネットワークを強化し、国際理解教育の授業を収支バランスの取れたものにしていきます。



(1) 事業概要

アイキャンのパヤタスごみ処分場での生計向上事業から2005年に独立した女性フェアトレード生産者団体の女性たち(SPNP:パヤタスの生計向上のためにがんばる母親達)とともに、生産・購入過程における①生産者のエンパワメント、②生産者の収入向上、そして販売過程において③貧困問題に対するメッセージ性と④収益性、⑤「できること(ICAN)」の実践としての場の提供を目的として、フェアトレード事業を行いました。

(2) 実施体制

日本事務局、マニラ事務局がボランティア、他機関・団体の協力を得て事業実施、運営。

(3) 実績

SPNPの団体運営を支え、モニタリングを行いながら、商品開発やバザーの出展を補助しました。またSPNPのフェアトレード製品を、日本とフィリピンでイベントや学校祭、事務所、ホームページ、店舗を通じて販売しました。その結果、多くの方々に貧困問題の深刻さや公正な貿易の必要性、そしてアイキャンの理念や活動を知っていただく機会を提供できました。

1) 委託店

① 継続14店舗

オゾン、ぎたんじやり、チャパカ、ドリーム、名古屋YMCA、くれよんBOX、パオバブ、kogomi、ワールドジャンクション、まなかまな、風"s、睦和(むーあ:ネットショップ)、JICA地球ひろば、KERATO HOME

② 新規3店舗

フェアビーンズ(JICA中部なごや地球ひろば)、フェアトレードカフェ、美容室vivier

2) イベント等での販売(委託含む)

想念寺、名古屋メーデー、名古屋国際中学、アースデイ愛知、国際協力サークルSEED、Youth Ending Hunger愛知、JICA、World Fair Trade Day、名大祭、ブラザー工業株式会社、国際ボランティアへの招待、広島大学附属高校、ボラみ展、大垣北高校、葛飾総合高校、北海道国際交流センター、フレンドシップフェスタ、AHIオープンハウス、ワールドコラボフェスタ、関西外国語大学、グローバルフェスタ、青山学院大学、Combi本陣文化祭、クラーク記念国際高校、アピタフリーマーケット、南山祭、中京大学、フェアトレードカレッジ、愛知大学、犬山中学校

3) フェアトレード勉強会の開催

アイキャン主催フェアトレードチームミーティング(8月)

(4) 特記事項

委託店が新しく3店舗増加するとともに、今年は大学だけに留まらず、高校の学園祭を通じての販売も広がった一年となりました。後半からは、全国のフェアトレードショップへの営業展開、クリスマス限定商品の販売促進を通して、さらなる発展へ向けての基盤をつくることができました。

(5) 2010年への展望

東海フェアトレードフォーラムの開催によって、この地域のフェアトレード関係者と市民のより幅広いネットワークを構築するとともに、フェアトレード文化を浸透させる基盤をつくります。抜本的改革として、顧客のリピート率が上がるような商品をつくります。また、勉強会を開催し、ボランティアを中心とした運営を促進し、活動をより活性化させます。



(1) 事業概要

現在、世界では南の国と北の国との間に大きな経済格差があり、その解決に多くの国や諸機関が取り組んでいます。しかし、現実にはその格差は広がりを見せており、より多くの人々が解決への行動に加わることが求められています。アイキャンでは、フィリピンの現状から、困窮の中にある人々の苦闘を日本の人々に伝え、同時にアイキャンの活動を広く知ってもらい、また開発に関心のある人々に学びの場を提供し、ともによりよい社会作りを担う人材を育成することを目的として、社会開発研修やスタディツアーを行い、事業地の益と、参加者の益と、アイキャン事業の益とを満たすことのできる3者がWIN-WINとなるプログラム内容を提供しています。

2009年は8月と9月に、事業地の子どもたちや人々との交流を主な目的としたスタディツアーを3回実施しました。

(2) 実施体制

日本事務局、マニラ事務所が事業実施、運営。

(3) 実績

2009年はAプラン、Bプラン、Cプラン3回のスタディツアーを8月と9月に実施しました。

1)プランA

実施期間:2009年8月20日から8月24日(4泊5日)

参加者:8名

内容:1日目オリエンテーション、2日目路上教育事業地訪問、3日目パヤタス事業地訪問、4日目子どもたちとの遠足、5日目帰国。

2)プランB

実施期間:2009年9月3日から9月7日(4泊5日)

参加者:11名

内容:1日目オリエンテーション、2日目路上教育事業地訪問、3日目パヤタス事業地訪問、4日目子どもたちとの遠足、5日目帰国。

3)プランC

実施期間:2009年9月19日から9月23日(4泊5日)

参加者:15名。

内容:1日目オリエンテーション、2日目子どもたちとの遠足、3日目路上教育事業地訪問、4日目パヤタス事業地訪問、5日目帰国。

(4) 特記事項

今期は参加者が参加しやすく、事業地やマニラ事務所が実施する開発事業にも負担が少ない4泊5日のツアー内容を確認することができました。また、今期のツアーに日本事務局のボランティアが参加し、日本の活動とフィリピンの活動の連携を強めることができました。ツアー参加者は帰国後に、ツアー報告会を自主企画し、「できること」の一環としてツアーでの経験を日本で共有しました。

(5) 2010年への展望

2010年も同様なツアーを引き続いて行っていく予定です。ボランティアのツアー参加、ツアー参加者の帰国後のつながりも強化し、スタディツアーを通して「できること」を実践する人を増やしていきます。

IV、災害緊急支援プログラム

1、マニラ台風災害対策事業

(写真: 救援物資を貰った子ども)



(1) 事業概要

フィリピンは世界の中でも有数の災害被害国です。災害時には社会的弱者が最もその影響を受け、特に子どもや高齢者が命を落とし、低所得層が生計を失ってしまいます。これに対しアイキャンでは、いち早く被災地のニーズに応える緊急支援と中長期的視点に立った復興活動を行ってきました。

2009年は、9月末に台風オンドイによる連日の大雨のために、マニラ首都圏とその周辺地域で大洪水が発生し、多くの被災者を出しました。アイキャンは被災のあった事業地やその他のマニラ首都圏各地で、パートナーNGOと協力して、緊急支援を行いました。

(2) 実施体制

マニラ事務所がパートナーNGOと協働で事業実施、運営。

(3) 実績

1) ケソン市ムニョス地区

路上教育の事業地であるムニョス地区では、オンドイ台風の洪水により、橋の下に住んでいたおよそ50家族が家を失い、2人の子どもが命を落とす惨事となりました。これに対し、アイキャンは家と家財を失った家族に、食糧救援物資や古着などを配布し、新たな収入の道を開くために生計向上活動を実施しました。

2) マラボン市の川沿いの6集落

フィリピンのNGOであるAKCDFの保育所にて、家財が流された家族にノートや鉛筆などの学用品を提供しました。

3) ケソン市バゴンシラガン町

洪水で30人が命を落としたバゴンシラガン町の川沿いの地域で、地元の教会の協力のもと、150世帯へ食糧救援物

資と古着を配布しました。

4) ケソン市アグハム地区

路上教育事業地のひとつアグハム地区でも洪水で被災した家族の子どもたち約30人に、古着を配布しました。

5) ケソン市バタサンヒルズ地区

フィリピンの災害対策専門のNGOであるCDRCと協働で、バタサンヒルズ地区にて支援物資を配布しました。バスケットボールコートに避難していた小学生、高校生に、通学カバンとノート、鉛筆などの文具を渡しました。

6) ケソン市パヤタス地区

アイキャン事業地パヤタスのブラックセブン地区は、洪水の被災が大きく、ここで約60家族へ、米、缶詰めなどの食糧救援物資や古着などを配布しました。また巡回医療支援も行いました。

(4) 特記事項

災害時に、多くの日本の方が行動していただき、アイキャンが持つフィリピンのNGOとの幅広いネットワークを活かして、素早く被災地での緊急活動を行うことができました。

(5) 2010年への展望

災害大国フィリピンで活動するNGOとして、常に大きな災害に対応して動くことができるように、準備態勢を整える必要があります。特に、災害時に備えた日本でのネットワークの構築、フィリピンの関係団体と共通のマニュアル作成、スタッフの人材育成を進めていきたいと思っております。



(1) 書き損じハガキ収集活動

今年は、書き損じハガキ担当スタッフが加わり、ハガキ収集活動を通じて多くのつながりができました。書き損じはがき回収BOXも作成し、各所に設置を依頼するなどして、集まったハガキは18,173枚、約80万円分を子どもの事業の教育寄付としてねん出することができました。

(2) 街頭募金

月に1回、毎回10人前後のボランティアメンバーが、道行く人に募金の呼びかけと活動のPRをしました。雨や雪の日も実施して1年間で集まった募金額は約18万円となり、フィリピンでの子どもたちの活動に使用しました。

(3) フェアトレード活動

ボランティアメンバーがフェアトレードグループを作り、ブース出店のコーディネートや新商品開発を行いました。メンバーが商品サンプルを作成したり、フェアトレード団体SPNPとの交流を行いました。

(4) 交流会&勉強会の開催

月に1回、ボランティアグループの交流会・勉強会を開催しました。今年は、グループ毎に目標を設定し、その達成を目指して活動を進めていきました。また、ここに出てきたアイデアが、グループの活動だけではなく、アイキャンの事業にも活かされました。

(5) フィリピンのスタッフとの交流

今年は、ボランティアメンバーがアイキャンTシャツを作成し、フィリピンのスタッフに届けました。遠く離れていても、同じ想いで活動をしていることをTシャツを通して伝えました。Tシャツ

はミンダナオ島の紛争地で活動するスタッフも日々着用しています。

(6) 初めまして！ICANの開催

年2回、ボランティアグループ企画・主催の事業説明会&ボランティア体験を開催しました。アイキャンに関心を持ち、ともに活動に参加してくれるメンバーを増やす為に、気軽に参加できるよう参加型で事業説明を行うなど、進め方に工夫をしました。これをきっかけに新メンバーも増え、活動が充実しました。

(7) 東京での活動

今年も、東京で開催されたグローバルフェスタ2009にブースを出店しました。ここでは、東京近郊在住のボランティアメンバーが中心となり、事前準備やブースのレイアウト、当日の販売・ボランティアコーディネートを担当しました。

(8) マニラでの活動

マニラ事務所においても、ボランティアメンバーがフェアトレードや会計など、組織運営・事業運営において活躍しました。フェアトレード市場の新規開拓や新商品開発など、日本と連携し、時にはともに悩みながら、より良い事業になるよう、スタッフとともに活動していただきました。

(9) 次年度への展望

引き続き、東京や名古屋、マニラでの活動を活性化させるとともに、大阪等の新しい場所での活動も活性化させていきます。